

論文審査の要旨

報告番号	甲・乙 第 2868 号	氏 名	山崎 明香
論文審査担当者	主査 相良博典 昭和大学内科学講座呼吸器アレルギー内科部門教授 副査 小林一女 昭和大学耳鼻咽喉科学講座教授 副査 泉崎雅彦 昭和大学生理学講座生体調節機能学部門教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本論文は、極低出生体重児の学童期の呼吸機能を、強制オシレーション法 (FOT) を用いて我が国で初めて評価したものである。これまで学童期の極低出生体重児は、スパイロメトリーを用いた検討で潜在的な呼吸機能障害を指摘されていた。しかし、スパイロメトリーは気流制限の指標であり、手技が年少児には難しい点で課題があった。対して FOT は、安静呼吸で直接的に気道抵抗と肺コンプライアンスを測定できる、新規の簡易な呼吸機能検査法である。</p> <p>対象 21 名のうち、スパイロメトリーを評価できたのは 13 名で、呼吸機能障害を示したのは 3 名だった。FOT は全員が検査を遂行でき、気道抵抗・肺コンプライアンスともに、既往歴のない正期産健常学童よりも悪かった。妊娠高血圧症候群合併例で R5、R20 が有意に高く、学童期の気道抵抗上昇との関連が示唆された。肺コンプライアンスの指標である X5 は、特に予測基準値との乖離が大きかった。</p> <p>FOT の測定成功率はスパイロメトリーより高く、今後の小児呼吸機能検査法として普及が望まれる。</p> <p>上記の点から、本論文が新しい知見を得ており、学術上価値があり、学位論文に値すると判断する。</p> <p>論文題名：強制オシレーション法を用いた極低出生体重児の学童期の呼吸機能評価</p> <p>掲載雑誌名： 昭和学士会雑誌 第 77 巻第 1 号 2017 年掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)